

# 日本酒

## おさらい講座

●その3



### ■うんちく酒話

●四季の酒 日本人はともかく酒を愛しました。季節ごとの酒があります。「花見酒」文字通り春の桜、花見のお酒です。桜の花見は奈良、平安時代のころから行われていたようで、有名なものに太閤秀吉の豪華絢爛な醍醐の花見がありました。

●夏越しの酒 6月の晦日に半年の汚れを流すために飲む酒です。この時期は田植えも終わり、ほっとひと息。これからの暑い夏を乗り切るための暑気払いのお酒です。

●月見酒 中秋の名月といえ、この満月の光を浴びて酌み交わす。旧暦の8月15日、今年平成19年は9月25日が旧8月15日ですが、満月は9月

27日になります。

●雪見酒 しんしんと降り続く雪を、雪見障子越しに炬燵のなかから熱燗の盃を手にじっと眺める。風流なものです。江戸のころは川に雪見舟もでたそうです。

●お燗のはなし 日本酒は温めて飲むとうまい数少ない酒です。温めることを「燗をつける」といいます。

「別れ火」という言葉があります。桃の節句（旧暦3月3日。今年は4月19日）から燗をやめることをいいます。反対に「菊酒」というのは重阳の節句（別名は菊の節句。旧暦9月9日今年は10月19日）から燗をつけ始めました。

日本酒での「冷や」とは常温の酒のことです。冷蔵庫で冷やした酒ではありません。「人肌」とは、乙女の内股の温かさといった粋人がいましたが、興味のある方はお試しください。

- 飛び切り燗……………55度前後
  - 熱燗……………50度前後
  - 上燗……………45度前後
  - ぬる燗……………40度前後
  - 人肌燗……………37度前後
  - 日向燗……………33度前後
  - 冷や……………常温
  - 涼冷え……………15度前後
  - 花冷え……………10度前後
  - 雪冷え……………5度前後
- 酒を飲むとなぜ酔つか お酒を飲む

と人は酔いますが、酔いには2種類があります。①アルコール飲料による「脳の麻痺」と、次に②アルコールが体内で分解することで生ずるアセトアルデヒドの毒性です。①はアルコール分の血中濃度で示され、その濃度の状態は次のとおりです。

- 0.05%…陽気で気分が朗らかになる。
- 0.08%…運動能力と反射神経が遅れる。
- 0.10%…運動能力が極端に落ちる。
- 真つ直ぐに歩けない。
- 0.20%…神経の錯乱や記憶力が低下する。立つていられない。
- 0.30%…意識がなくなる。
- 0.40%…昏睡から死にいたる。

ちなみに、血液の量はおおむね体重の13分の1といわれています。ですから体重65kgの成人で、血液は約5ℓです。

●チャンポンは悪酔いするか お酒を飲んでいるとき、胃や肝臓は、初めに入ってきたアルコール濃度に対応して受け入れています。そこに濃度の違うアルコールが入ってきますと、吸収のバランスが乱れて血中濃度が狂い脳の調整機能が麻痺してきます。種類の違うお酒で気分が変わり、ついでを過ごしてしまい、アルコールの総摂取量が増えて、結果として酔いにつながります。

「酒は飲むとも、飲まれるな」。先人は名言を残しています。